意見の概要

テーマ1：今後の県政に期待する取組と県の事業で刷新すべきもの

- ・ 秋田市内の体育施設の駐車場の不足している。全ての県民にとって利便性が良い体育施設の再配置と駐車場問題の一体的な見直しを求める。
- ・ 事業評価にK P Iを導入し、客観的かつ大胆な事業評価を推進すべきだ。低達成率の事業の継続には、議会承認を必須とすべきだ。
- ・ 移住促進事業について、他県に比べサポートが手薄だ。移住後の定着支援を強化するために、まずは、他県事業のベンチマークを行い、本県と比較することから始めて欲しい。
- ・ 県内での起業を支援するため、秋田を応援したい方々からの寄付等を受け入れ、起業家に補助や支援を行うための「基金」を設置してはどうか。

テーマ2：県立高校の入試制度

- ・ 11月に特色選抜を加味した学力試験に加え、3月上旬に二期目として従来の学力試験を実施してはどうか。
- ・ スポーツ分野の有望な中学生の県外流出を防ぐには、入試制度だけではなく、教員の過重労働の一因となっている部活動の在り方を見直すべきだ。部活動の地域移行や部活動専門教員の配置を進めて欲しい。

テーマ3：今後の米生産、流通等の在り方

- ・ 国の政策である経営の大規模化一辺倒ではなく、有機農業など多様な農業形態を包括的に支援する政策が必要だ。これにより、若者や新規就農者が参入しやすい環境を整備し、農業の担い手を確保することが急務だ。
- ・ 大災害に備え、本県が独自に災害用備蓄米を備蓄し、被災した都道府県に迅速に輸送する体制を整備してはどうか。この取組は、「米どころ秋田は米で日本を助けられる」という県民の誇りにもつながる。
- ・ 消費者は従来の「あきたこまち」を継続して食べたいと思っている。「あきたこまちR」との併用栽培を継続し、消費者や生産者が選択できる環境を維持して欲しい。また、「あきたこまちR」であることを表示して欲しい。

テーマ4：クマなどの野生鳥獣の管理や被害防止対策

- ・ 小型ドローンを活用した追跡や捕縛、捕獲後に人の怖さを学ばせた後で放獣するなどの対策を講じて欲しい。また、他県でも事例がある「ベアドック」の導入を検討してはどうか。
- ・ ニホンジカやイノシシの解体が可能な小規模ユニット式解体所の開発や普及に努めることで、捕獲した鳥獣を食肉や皮革として有効活用できる体制を構築すべきだ。
- ・ 狩猟免許取得希望者への補助金の拡充を図り、取得前後の相談や情報提供を受けられる窓口を県として整備して欲しい。

テーマ5：空き家問題

- ・ 市街化調整区域内の土地や空き家の利活用は規制が厳しい。地域住民や事業者が空き家を地域資源として再生、活用しやすくなるよう、時代に合わせた見直しを望む。
- ・ 空き家の放置を解消するため、空き家の土地は更地と同じ扱いとなるよう、国に働き掛けて欲しい。
- ・ 県が、市町村と協力してより詳細に空き家の実態調査を実施し、物件情報の可視化を早急に進め、利活用できる状態のうちに後継者に繋ぐための仕組みを作って欲しい。
- ・ 空き家は「住まいの資産」である。リフォームやリノベーションにかかる補助制度を創設するとともに、職人不足に対応するため、若手職人の育成も併せて進めて欲しい。

テーマ6：稼げる観光地づくり

- ・ 長期滞在型観光を促進するため、複数の観光拠点を集約し、シャトルバスで繋いでどうか。
- ・ 観光地としてお客様を呼ぶには、まず交通インフラの整備が不可欠だ。道路補修のほか、全県的なタクシー不足も踏まえ、先進的にライドシェアの自由化を促進してはどうか。
- ・ 顧客対応がお粗末であるため、県民に顧客対応マニュアルを作成周知し、観光業界に対して勉強会や講習会実施の支援を行うべきだ。

テーマ7：学校再編と特色ある学校づくり

- ・ 児童生徒数が少ない学校は、活動が困難なため、早期に統合再編を進めるべきだ。廃校となる学校は、時代の流れにより一定の役割を終えた、と考えてはどうか。統合後の校舎は、地域の企業に貸し出すなど、経済活動に役立つよう再利用して欲しい。
- ・ 既存の学校の枠にとらわれず、自然の中での学びや不登校生徒向けのフリースクールなど、全国から生徒を呼び込めるような特色ある学校づくりを進めてみてはどうか。
- ・ 群馬県の取組を参考に、クリエイター育成に資する教育を行うとともに、全国からクリエイターが集まる環境整備をしたらどうか。

テーマ8：風力発電事業における安全対策

- ・ 事故防止のため、雷を受けた後の運用停止や全ブレードの人員による降下点検の実施など、より厳格な点検基準を設けるべきだ。
- ・ 住民の安全確保、環境への影響等、県民の理解や疑念払拭のため、もっと時間をかけて話し合っ欲しい。
- ・ 風力発電は、超低周波音による健康被害などソフト面の安全対策も必要である。電気の地産地消や住民への電気料金低減も進めて欲しい。
- ・ 風力発電は地域の経済活性化や雇用創出に繋がるため、「再生可能エネルギー」のフロントランナーとして積極的に推進して欲しい。

テーマ9：オーガニック給食の必要性

- ・ オーガニック給食は、食の安全性を高め、子どもの健康増進にも繋がる。子ども時代から育む、食による心身の健康意識の定着を図るため、オーガニック給食は必要だ。
- ・ オーガニック給食は地域農業を変える大きなきっかけとなる。「オーガニックビレッジ宣言」などによる地域全体における有機農業の推進への機運の高まりに加え、給食という安定した需要により、農家が慣行栽培から有機農業へ一歩踏み出すきっかけにもなる。
- ・ オーガニック食材はコストが高く、供給量も少ないため、学校給食での導入は非現実的だ。まずは、地元の農家の支援に努め、コストを抑えた上で栄養価の高い給食の維持を優先すべきだ。

テーマ10：人口減少対策で最優先すべき事項

- ・ 保育料の所得制限を撤廃した上で、0歳から全県で保育料の無償化を実施して欲しい。
- ・ 若手人材の流出抑制やAターンの増加を実現するには、安定的な収入が得られる一定規模の企業への雇用が必要だ。行政は、農業分野を含め、企業・法人の大規模化を促す施策を行うべきだ。
- ・ 地元に残る若者の社会保険料や税負担の軽減策を行ったらどうか。また、結婚減税や子供減税を導入したらどうか。
- ・ 婚姻や子どもの有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる秋田を目指し、多様な価値観を聴いた上でまちづくりを進めて欲しい。
- ・ 若年女性の県内定着率を向上させるため、県独自の「雇用均等条例」を制定し、男女の雇用差をなくし、若年女性の就職拡大を目指すべきだ。
- ・ 除雪機の購入補助や安全な使用方法に関する講習会の実施や雪道ドライブへのサポートなど、積雪寒冷地での生活を少しでも快適にするための方策を講じるべきだ。

テーマ11：秋田県の「押し」

- ・ 一面見渡せる空、美味しい空気、美しい山、綺麗な水、温泉があること。
- ・ 交通アクセスの不便さや都市化されていないことゆえ残されている、豊かな自然環境と人の温もり。

テーマ12：里親制度

- ・ 町内会や複数の県民が協力して子どもを受け入れる「集団里親」のような仕組みを検討してみてもどうか。
- ・ 0歳から2歳までの乳幼児は、特定の養育者との愛着形成の下での養育が心身の成長や発達には不可欠である。一方、現状は、保護を要する乳幼児のほとんどが施設入所となっている。今後は、里親委託に繋げることが難しい要因を検証するとともに、0歳から2歳の子ども達を受け入れることが可能な「養育里親」を育成し、増やしていく必要がある。

テーマ13：持続可能な地域にしていくための観光振興

- ・ 観光客を呼ぶには、「行かなければいけない理由」が必要だ。多くの来県が見込まれる全国規模の団体競技大会やユニークなイベント

を創設し、年間を通じて開催してはどうか。また、雪寄せ隊、花火協力隊などボランティア兼宿泊付き観光プランを用意したらどうか。

- 大量の観光客を呼び込むスタイルから脱却し、ニッチなニーズに応える形で、秋田の自然や文化の本質を理解し、その価値に見合った対価を支払う方々に選んで訪れてもらえる観光スタイルを推進して欲しい。
- 大潟村の菜の花ロードのような素晴らしい景観を「通過人口」で終わらせないため、サイクリングロードの整備や既存施設と連携した取組など「滞留人口」を増やす工夫をすべきだ。